

**助成年度：平成 24 年度**

**[所属]** 文化学園大学 服装学部

**[役職]** 准教授

**[氏名]** 江戸 克栄

**[課題]**

## **新しいファッション循環社会システム構築のための社会・経済的研究 一産業と消費者における課題と統合的システム構築の展開一**

**[内容]**

本助成の目的は、産業的側面と消費者的側面からアプローチすることにより、現代社会におけるファッションの循環社会システムの問題点を抽出し、循環社会システム構築に向けて提言を行うことである。

産業的側面のアプローチとして、原材料関連企業 2 社、紡績・紡織業関連企業 2 社、生産関連企業 5 社、流通関連企業 3 社、リサイクル事業関係 2 社、その他関連事業者 3 社を対象にヒアリングを行った。各々、生産・流通段階での循環社会に関する取組があるものの、構築が遅れている原因は 2 つあった。第 1 に、水平的・垂直的連携がなされていないことである。第 2 に、本来中核的役割を果たすべき企業が、価格中心の競争や商品開発を行うことしかできず、循環型社会のための活動をなかなかできないことがある。これらの問題を解決するためには、産官学が一体となった教育、法制化を進めていかなければならない。

消費者的側面では、消費者の低関与が阻害要因となっていることがわかった。この原因は、グローバル化と情報化が根本的な原因である。SPA やファストファッションが市場を席卷し、結果、低価格化や商品ライフサイクルの短縮化が消費者のファッションエコ意識の低関与化を招いた。また、ファッション商品独自の商品特性（廃棄意識）が低関与の原因として加わっている。ファッション循環社会システム構築のためには、いずれかの連鎖関係（因果関係）を断ち切ることが重要である。これには、小売業を用いたディポジットシステムや分別回収タグ作成による自動回収システムの検討、あるいは法制化が必要である。

ファッション循環型社会システムを構築するためには、より多くの人々の関心が必要であるが、世間ではあまり注目されていない。今後は、ファッション循環型社会システムを構築するために、より広報的な活動を進めていくとともに、より良い方法論を研究していく必要がある。